

薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握（多職種間情報連携）

研究分担者 竹屋 泰 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 老年看護学 教授
研究協力者 糝屋 絵理子 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 老年看護学 助教

研究要旨

本研究では、薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握を目的に記述式アンケート調査を行った。研究分担者は、多職種のうち看護師に焦点を当て、薬剤師と看護師間の情報連携の実態や課題をアンケート結果より分析した。結果、自施設内では 9 割以上が薬剤師と看護師間で情報交換を行っていたが、自施設外とのやり取りは 3 割未満に留まった。看護師から薬剤師へ提供する情報としては、服薬状況など薬の情報に限らず、日常生活活動（ADL）、認知機能、生活状況（食事、睡眠、排泄等）など、看護師が得意とする、患者の生活機能に関連した情報を提供していた。また、半数以上の看護師が薬剤に関する患者からの問い合わせで困ったことがあると回答する一方、忙しさや接触機会の少なさから、相談の機会を失っている現状が示唆された。また、薬剤師と看護師間の連携手段は、電話が主流であり、専用アプリの普及は未だ不十分な状況であった。今後、施設内外問わず、シームレスに薬剤師と看護師の情報連携を進めるためには、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）ツールを積極的に用いた効率的な情報連携体制を構築するとともに、両者間で意識的に接触する機会を設けることで、補完的な関係を築くことが重要であると示唆された。

A. 研究目的

本研究は、ポリファーマシー（多剤服用に伴う問題）に対する薬剤師間および多職種間の情報連携の実態を把握し、その改善に向けた基礎資料を作成し、情報共有様式の作成とガイド作成を目的としている。ポリファーマシーは、薬物有害事象や服薬アドヒアランスの低下などを含む薬物療法の包括的な適正化を求めるものであり、処方歴や病名だけではなく、認知機能や日常生活動作（ADL）、栄養状態、生活環境を含む高齢者総合機能評価（CGA）などの多角的な患者評価が重要である。医療機関と薬局間の情報連携の不足、情報提供の不十分さ、電

子的な情報交換の欠如など、現状には多くの課題が存在する。この研究では、病院および薬局の薬剤師、その他の医療従事者、ポリファーマシー対策チームを持つ病院の薬剤師、および電子薬歴や薬剤管理指導支援システムを販売する事業者を対象としたアンケート調査を通じて、情報共有の現状を明らかにし、情報共有の様式や共有方法の改善提案を目指す。

＜各年度の目標＞

本目的を達成するために下記の小目標を立てる。

1. 薬剤師間の情報連携ツールに関する網羅的調査（2023 年度）

2.薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握（2023 年度）

3.薬剤師間の情報連携ツール案の開発（2023 年度～2024 年度）

4.薬剤師間の電子的情報連携の検討（2023 年度～2024 年度）

5.情報連携ツールの試験導入および効果検証（2024 年度）

6.ツールの使用に関するガイド作成・周知（2024 年度）

B. 研究方法

アンケート調査:

デザイン: 質問票を用いた WEB によるアンケート調査

調査方法: 日本老年薬学会、日本老年医学会、日本老年看護学会、日本老年歯科医学会、一般社団法人日本病態栄養学会、一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会に協力を要請し、会員等に対してメールで依頼を行い、QR コードからの電子入力対応とし WEB による回収とする。

評価項目:

以下の項目を調査する。

・薬剤師の情報連携に関するアンケート調査

基本情報（勤務先の施設区分、年齢群、薬剤師としての経験年数、普段対応中の患者に対して、情報を収集しているもの）、薬剤師間の情報連携は薬物治療の向上につながるか、薬剤に関する情報提供書について、情報提供書の作成について、フィードバックについて、薬剤師同士の交流について、薬剤師間の情報交換のコミュニケーションツールについて、多職種との連携について

・多職種における薬剤師との情報連携に関するアンケート調査

基本情報（職種、年齢群、職種の経験年数、施設の情報（種類）、施設内に薬剤師の有無、施設外の薬剤師と情報交換したことの有無、施設外の薬剤師から情報提供について、薬剤に関する業務について、薬剤に関する患者からの問い合わせで困ったこと、薬剤師と情報交換の有無、薬剤師から患者に対する相談や問い合わせの有無、今まで薬剤師から情報を受け取った際に不要と感じた情報の有無、薬剤師と連携することに対して不足している理由、どのようなツールがあれば薬剤師との情報交換が向上するか

・ポリファーマシー対策チームを有する病院の担当薬剤師へのアンケート調査

医療機能について、どの機能を持っているか、薬剤師情報、病床数、病棟薬剤業務実施加算について、ポリファーマシー担当の薬剤師はいるか、「問合せ簡素化プロトコル」を病院で作成し運用しているか、病院内で多剤併用や PIMs（potentially inappropriate medications: 潜在的に不適切な薬剤）投与などの患者を自動的に抽出するツールはあるか、保険薬局からの情報提供について、地域研修会の実施について、薬剤調整をするカンファレンスについて、薬剤師の患者聴き取り時について、薬剤調整カンファレンス時について、薬剤調整時について、外部との情報を共有について

・電子薬歴・薬剤管理指導支援システムに関するアンケート調査

事業者名（企業名）、提供している主な製品やサービス名、利用者の主なターゲット、システムの薬剤師利用状況、情報提供書作成について、情報連携について、ポリファーマシー対策について

アンケート調査期間： 2024 年 2 月 1 日～
2024 年 2 月 15 日で実施した。

C. 研究成果

看護師の回答者は計 67 名、看護師経験
20～24 年目 17 名(25.4%)が最も多く、回
答者の所属施設は、病院 57 名(85.1%)、訪
問看護ステーション 3 名 (4.5%)、診療所
(4.5%) であった。

アンケートの結果、自施設内に薬剤師が
いると回答した 57 名 (85%) のうち、52 名
(91%) の看護師が、自施設内の薬剤師と情
報交換を行っていると回答した。また、この
52 名はすべて病院所属の看護師であった。
情報交換の詳細について、自施設内の薬剤
師からは「薬物有害事象の評価」「処方見直
しの提案」「薬物療法の評価」「相互作用の評
価」を中心に看護師へ情報を提供し、看護師
からは「服薬管理方法 (自己管理、家族管理
等)」「認知機能」「服薬状況 (良好、飲み
忘れ等) の評価」「残薬管理」「日常生活活
動 (ADL)」「薬剤嚥下困難の有無の確認」
などの患者情報を提供していた。また、看護
師が受け取りたい情報として、「薬物有害事
象の評価」44 名 (77.2%) や「相互作用の
評価」43 名 (75.4%) の回答が上位を占め
ていた。

次に、自施設外の薬剤師と情報交換をし
たことがあると回答した看護師は、18 名
(27%) であった。情報交換の詳細について、
自施設外の薬剤師からは「服薬管理ツール
(服薬カレンダー、お薬ケース等)」「残薬管
理」「服薬管理方法(自己管理、家族管理等)」「
他医療機関の処方情報」を中心に、看護師
へ情報を提供し、看護師からは「服薬状況
(良好、飲み忘れ等)の評価」「日常生活活動
(ADL)」「認知機能」「生活状況 (食事、
睡眠、排泄等)」などの患者情報を提供して

いた。また、看護師が受け取りたい情報とし
て、「服薬状況(良好、飲み忘れ等)の評価」
44 名 (65.7%) や「服薬管理ツール (服薬
カレンダー、お薬ケース等)」35 名 (52.2%)
の回答が上位を占めていた。また、自施設外
の薬剤師と看護師間の連携手段は、電話 17
名 (94.4%) が最も多く、次いで FAX 3 名
(16.7%)、専用アプリ 2 名 (11.1%) の順
であった。うち、専用アプリと回答した 2 名
の所属施設は訪問看護ステーションであっ
た。

次に、回答者が薬剤に関する患者からの
問い合わせで困った経験があるかについて
は、35 名 (52%) が困ったことがあると回
答し、具体的に「薬剤に関する問い合わせ
(薬効、飲み合わせ、相互作用、作用機序
等)」、「服薬誤り時の対応 (過剰摂取等)」、
「服薬管理困難な事例への対応 (認知機能
低下等)」など回答した。その際の対応法と
して、「薬剤師に聞く (自施設内)」が 56 名
(83.6%) と最も多かった。

最後に、薬剤師と連携する際に課題に感
じていることについては、「忙しく相談する
時間がない」30 名 (44.8%) が最も多く、
次いで「特になし」19 名 (28.4%)、「薬剤
師に質問しても回答がない」11 名 (16.4%)、
「同じ時間で仕事をすることがない」10 名
(14.9%) であった。

D. 考察

看護師と薬剤師との情報連携について、
自施設内では 9 割以上がやり取りを行って
いたが、自施設外とのやり取りは 3 割未満
に留まった。看護師から薬剤師へ提供する
情報としては、服薬状況など薬の情報に限
らず、日常生活活動 (ADL)、認知機能、
生活状況 (食事、睡眠、排泄等) など、看護
師が得意とする、患者の生活や身体機能に

関連した情報を提供していた。薬剤師から看護師へ提供する情報は、自施設内・外で異なり、自施設内では、薬物有害事象や相互作用の評価など、服薬管理状況を把握したうえで、より専門的な情報を看護師に提供していた。一方、薬局を中心とした、自施設外からの情報提供は、在宅での患者の服薬管理の情報を中心に、服薬管理ツールや服薬管理方法の詳細を提供されていた。

また、薬剤に関する患者からの問い合わせで困った経験について、半数以上の看護師が困ったことがあると回答する一方、忙しさや接触機会の少なさから、相談の機会を失っている現状が示唆された。また、薬剤師と看護師間の連携手段としては、電話が主流であり、専用アプリの普及は未だ不十分な状況であった。

今後、施設内外問わず、シームレスに薬剤師と看護師の情報連携を進めるためには、ICT ツールを積極的に用いた効率的な情報連携体制を構築するとともに、互いのニー

ズを把握したうえで、両者間で意識的に接触する機会を設け、補完的な関係を構築することが重要であると示唆された。

E. 結論

看護師、薬剤師間の情報連携は自施設内では、日常的に行われているが、自施設内・外での連携は未だ少ない現状にあった。今後、ICT を活用した情報連携を基盤とした、効率的な連携をもとに、薬剤師と看護師の補完的な関係を構築することが期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし